

水 や り

みなさんこんにちは。突然ですが、詩人の茨木のり子さんを知っていますか？小学生だったころ国語の教科書で彼女の詩を読んだことがある人もいないでしょうか。一番代表的とされる詩は「私がいちばん綺麗だった時」でしょう。わたしもこの詩で彼女のことを知りました。しかし今日この場でご紹介させていただく詩はこの作品とは別の作品である「自分の感受性ぐらい」です。

自分の感受性ぐらい

茨木のり子

ばさばさに乾いてゆく心を
ひとのせいにはするな
みずから水やりを怠っておいて

気難しくなってきたのを
友人のせいにはするな
しなやかさを失ったのはどちらなのか

苛立つのを
近親のせいにはするな
なにかも下手だったのはわたくし

初心消えかかるのを
暮らしのせいにはするな
そもそもが ひよわな志にすぎなかった

駄目なことの一切を
時代のせいにはするな
わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性ぐらい
自分で守れ
ばかものよ

私はこの詩がとても好きです。かなり棘があるように感じる言葉もありますが、それも含め彼女の力強さをひしひしと受け取ることができます。自分の感受性ぐらい自分で守れというこの言葉に、自身を守るという見落とされがちですが大切な強さが、生命力が強調されていてとても勇気が出ます。健やかな生活は、健やかな魂が無ければ成り立ちません。最近この詩に触発されて、頻繁に展覧会や画展、美術館や映画館に足を運んでいます。今までの人生で試みたことがなかったので最初は「こんなにお金がかかるのか」、「遠いなあ」、「観ても良く分からないなあ、来ない方が良かったのかなあ」などと小さな不満がぽつぽつと出ていました。しかし、知らないものを知ることや芸術という人の営みに触れることは、自分では気がつかなくても確かに人生をゆたかにしてくれているものです。それを実感するのは今すぐかもしれないし、何十年後かもしれない。けれど確かに私のところをしなやかにしてくれているのです。これからも常に水やりをできるゆとりを持ちたいものです。

水やりは身近なことからも実践できます。好きな音楽を聴くこと、空の青や木々の緑のまぶしさを受け止めること、今回のように、詩などの自分の好きな言葉を心で味わって食べること。みなさんにとっての水やりはどんなものがあるでしょうか。